

甲突川千本桜再生プロジェクト基本計画の 検討に関する サウンディング型市場調査



事業概要書 (Version I)

1. 甲突川千本桜再生プロジェクトとは
2. 調査の背景と目的
3. 調査対象地の概要
4. 調査対象地の現状と課題
5. 参考資料① 甲突川河畔および周辺の施設情報
参考資料② 甲突川河畔への来訪者数に関する人流データ

鹿児島市
令和7年5月

1. 甲突川千本桜再生プロジェクトとは

- ・ 平田橋から天保山橋にいたる甲突川左岸緑地、甲突川右岸緑地および水辺を含む一体的な空間（以下、「甲突川河畔」という。）は、“鹿児島市中央駅地区”と“いつろ・天文館地区”の間に位置し、春には2km以上にわたって桜が咲き誇り、本市のお花見スポットとして親しまれています。
- ・ この桜は、昭和40年代に各種団体等から約300本の桜を寄贈いただいたほか、昭和52年から54年にかけて、公益社団法人鹿児島青年会議所（以下、「鹿児島JC」という。）が中心となり、甲突川河畔に“市民の憩いの場を作ろう”と、様々な方々の協力のもと、「千本の桜」を植樹したことがきっかけとなっています。
- ・ この植樹活動からおよそ50年が経過し、桜全体の老木化が進行しているほか、病虫害被害などを受けている桜が散見されています。また、現在の桜の本数は500本以下まで減少しており、このままでは、歴史ある「千本桜」の衰退や生育不良による倒木などの危険性が懸念されます。



甲突川千本桜再生プロジェクト

歴史ある千本桜の再生を行い、市民の憩いの場としての機能を継承するとともに、新たな桜の名所として、甲突川河畔の魅力をさらに高め、まち全体の活力向上へと繋げることを目指します。



本プロジェクトの対象位置図

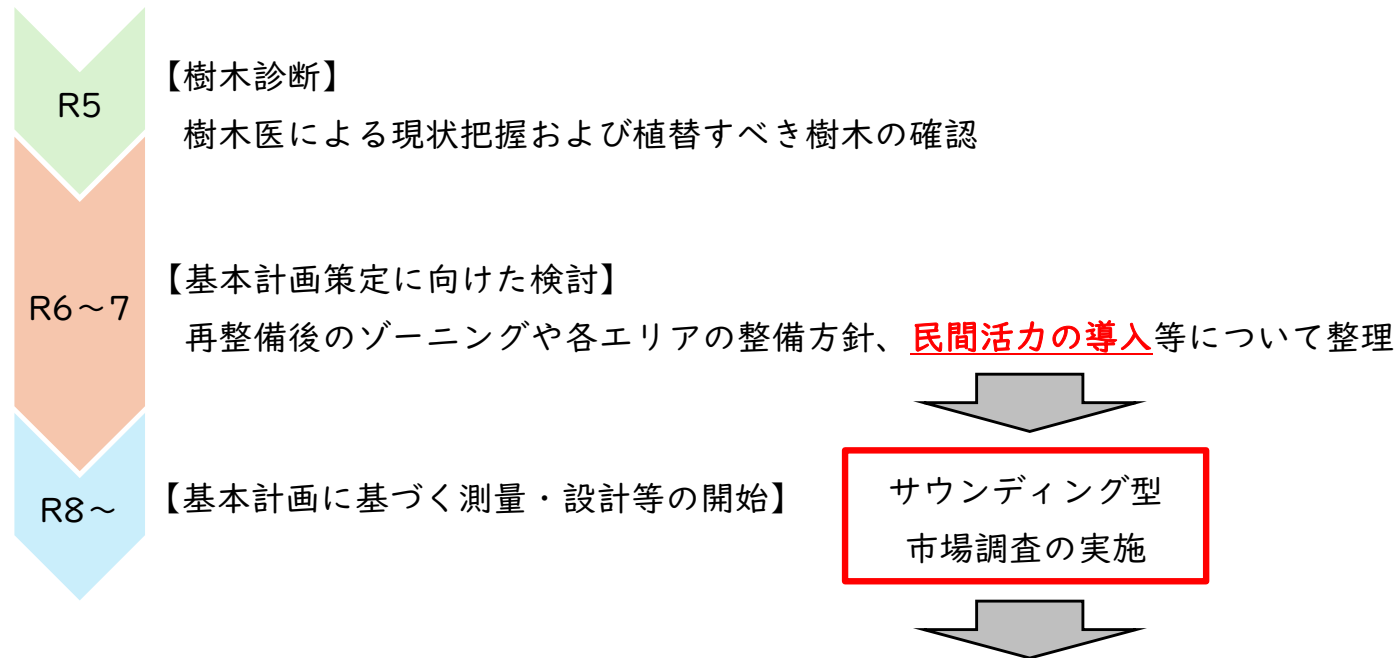


2. 調査の背景と目的

■調査の背景

本プロジェクトの実施にあたっては、

- ・桜の植替を行うとともに、様々な桜の品種の導入や景観を生かした桜の再配置等を行い、新たな桜の名所として再整備を行う
- ・市長マニフェストの「市民や観光客の憩いの場としての甲突川の魅力向上」や「鹿児島市中心市街地活性化基本計画」、「歩いて楽しめるまちづくり推進事業」などの関連施策にも位置付けられていることから、更なるにぎわいの創出や回遊性の向上を目的に、園路整備や休憩施設等の整備、“民間活力の導入”など、緑地全体の再整備についても検討を行う



引用：加治屋まちの杜公園パンフレット 鹿児島市 令和2年10月

■調査の目的

本調査は、民間事業者との対話を通じて、同河畔における市場性の有無や利活用のアイデア・ノウハウを把握することにより、今後の基本計画策定に向けた検討の参考とすることを目的に実施するものです。

3. 調査対象地の概要

■甲突川河畔の概要

甲突川河畔は前述のとおり、本市のお花見スポットとして長年親しまれているほか、南洲橋から見える“桜並木と“甲突川”、そして“桜島”が生み出す眺望は、本市を代表する都市景観を形成しています。

また、高見橋から甲突橋間、その周辺には“西郷隆盛・従道誕生地”や“大久保利通生い立ちの地”など、歴史的な資源が数多く点在し、“維新ふるさと館”など歴史を感じられる空間として整備されているほか、春と秋には、盆栽や花などを販売する「木市」が、1月には伝統的な「破魔投げ」が行われ、多くの市民が訪れる“にぎわいスポット”となっています(P5, 6現況図参照)。

さらに、同河畔には、桜のほかにクスノキやクロガネモチなどの樹木が植栽され、緑陰の中で散歩やジョギングを楽しむ人々や、遊具で遊ぶ子供たちの姿が見られるほか、河川ではサップ体験など水辺を生かしたアクティビティが行われており、多くの市民が訪れる“市民の憩いの場”としての機能も果たしています。



南洲橋からの景観



春の木市



緑地で遊ぶこどもたち

3. 調査対象地の概要



【土地の状況】

名称	甲突川左岸緑地	甲突川右岸緑地
所在地	鹿児島市平之町35番2外(平田橋～天保山橋)	鹿児島市上之園町2番1外(南洲橋～天保山橋)
開設年月日	昭和30年4月1日	昭和33年4月1日
公園種別	地区公園	近隣公園
対象面積	6.10ha	2.18ha

【関連法令等】

名称	甲突川左岸緑地	甲突川右岸緑地
都市計画法		
区域区分	市街化区域	市街化区域
用途地域	・平田橋～高見橋 ⇒ 商業地域 (容積率400%、建ぺい率80%) ・高見橋(一部) ⇒ 商業地域 (容積率600%、建ぺい率80%) ・高見橋～甲突橋 ⇒ 近隣商業地域(容積率400%、建ぺい率80%) ・甲突橋～武之橋 ⇒ 商業地域 (容積率400%、建ぺい率80%) ・武之橋～天保山橋 ⇒ 近隣商業地域(容積率300%、建ぺい率80%)	・南洲橋～新高橋 ⇒ 商業地域 (容積率400%、建ぺい率80%) ・新高橋～武之橋 ⇒ 第一種住居地域(容積率200%、建ぺい率60%) ・武之橋(一部) ⇒ 商業地域 (容積率400%、建ぺい率80%) ・武之橋～天保山橋 ⇒ 第一種住居地域(容積率200%、建ぺい率60%)
防火・準防火地域	・高見橋付近 ⇒ 防火地域 ・高見橋付近以外 ⇒ 準防火地域	・南洲橋～新高橋 ⇒ 準防火地域 ・武之橋付近 ⇒ 準防火地域
鹿児島市公園条例		
建ぺい率 (都市公園法で定める値を参酌して本市条例で定めた値)	・公園施設の設置基準(便所などの便益施設等を設置する場合が該当) 2%を限度として設置することができる ・公園施設の設置基準の特例(休憩所などの休養施設、体験学習施設などの教養施設、 <u>公募対象公園施設</u> 等を設置する場合が該当) 上記2%とは別に、10%を限度として設置することができる	
	新たに <u>公募対象公園施設</u> を設置する場合、およそ3,000㎡程度を想定	新たに <u>公募対象公園施設</u> を設置する場合、およそ2,000㎡程度を想定

※用途地域や防火・準防火地域の詳細については、「かごしまiマップ(<https://www2.wagmap.jp/kagoshima/Portal>)」をご覧ください。

4 . 調査対象地の現状と課題

●甲突川河畔(上流エリア)の現況 ※上流エリア：平田橋～南州橋



4 . 調査対象地の現状と課題

●甲突川河畔(中流エリア)の現況 ※中流エリア：南洲橋～武之橋



(8) 歴史を感じる場所、樹木の生育環境の悪化

高麗橋～甲突橋にかけては、「維新ドラマの道」として整備され、歴史パネルが点在し、明治維新を感じながら散歩や休憩ができる場所となっています。一方、緑地内の樹木は大木化し、樹木の生育環境は悪化しています。



(9) 緑地全体の老朽化

桜や様々な樹木による緑の空間が広がっていますが、道路側の樹木が成長し混みあっているほか、東屋や園路の老朽化、芝生の裸地化など、緑地全体の老朽化が進んでいます。



(7) 屋外プールの老朽化

無料の屋外プール(アシカプール)があり、夏場(7月～8月)は多くの子どもたちで賑わっています。しかし、設置から年数が経過し、老朽化が進んでいるほか、夏場以外の利用がなく、通年における利活用が課題となっています。



(10) 桜の生育不良、景観への影響

大木化したクスノキなどの高木が桜を圧迫し、桜の樹形や生育に影響を及ぼしており、桜の生育状況は非常に悪くなっています。また、大木化した高木が桜並木を分断し、景観へ影響を及ぼしています。



(11) 憩い空間と「ナポリ通り」との一体性

河川や桜島を眺められるオープンテラスが整備され、憩いの空間が広がっています。一方、この場所は、本市のシンボルロードである「ナポリ通り」に隣接していますが、緑地内の樹木が大木化し、ナポリ通りとの一体性が損なわれているほか、同路線のクスノキを圧迫し、生育に影響を及ぼしています。



(12) 桜と緑の憩い空間

芝生の裸地化が一部見られますが、園路など基盤や桜の生育状況は比較的良好であり、桜と緑の憩い空間が広がっています。近隣には「シェラトン鹿児島」ができ、外国人観光客が緑地内を散策する姿が見られるほか、桜の開花時期には、芝生広場で多くの方がお花見やBBQを行う姿が見られます。



4 . 調査対象地の現状と課題

●甲突川河畔(下流エリア)の現況 ※下流エリア：武之橋～天保山橋



(13) 遊具や東屋、緑地等の老朽化

緑地内の遊具では、こどもたちの楽しむ姿が見られますが、設置から年数が経過し、老朽化が進んでいるものも見られます。

また、東屋やベンチも老朽化が進んでいるほか、滞水する場所、芝生の裸地化なども見られます。



1. 遊具で遊んでいるこどもたち



2. 滞水している広場

(14) 桜の生育不良、桜を含む樹木の生育環境の悪化

シロアリ被害や幹の腐朽など、著しい被害が見られる桜が多く、桜の生育状況は年々悪くなっています。また、樹木の大木化や密植による日照不足など、生育環境の悪化が見られます。



傷んでいる桜の写真



(15) 水辺を感じる憩いの空間

甲突川を眺めながら散歩をしたり、休憩をしたりできる憩いの空間が広がっています。芝生の裸地化や東屋・ベンチ等の老朽化が一部見られますが、園路などの基盤は近年整備されています。

一方、桜の生育状況は、シロアリ被害や腐朽が見られるなど、注意すべき状態のものが多く見られます。



1. 緑地の様子



2. 整備された園路

(16) こどもたちが集まる憩いの場

日中は散歩やジョギング、木陰の中で休憩している方の姿が多く見られますが、夕方になると、学校後のこどもたちが集まり、遊んでいる姿が見られます。



こどもたちが遊んでいる様子

4. 調査対象地の現状と課題

課題Ⅰ

桜の老木化等による桜並木の衰退、桜の名所としての魅力低下

課題Ⅰ-1. 桜の老木化、病虫害被害

桜全体の老木化が進行し、**開花状況の悪い桜や、幹や枝の腐朽、シロアリやキノコなど病虫害被害等を受けている桜が散見されています。**

桜の開花状況の変化

●約10年前の満開時の桜
(2014年4月撮影)



花芽の数が多く、満開に咲いている桜

●昨年の満開時の桜
(2024年4月撮影)



花芽の数が少なく、満開になっていない桜



幹に腐朽が入っている桜



キノコの被害を受けている桜

課題Ⅰ-2. 桜の管理不足、土壌環境や生育環境の悪化

本市の気候や土壌条件などに適した桜の維持管理方法が確立されておらず、適切な維持管理が出来ていない状況です。

また、来訪者による土壌の踏みしめ（踏圧）により、土が固くなり、根の生育に影響を及ぼしている場所や植栽桝が狭すぎる場所、クスノキなどの高木の大木化により、日照不足が生じている場所などが見られ、**桜の生育環境は年々悪化しています。**



植栽桝が狭く、
根上がりしている桜

課題Ⅰ-3. 桜を惹き立てる魅力的な空間の不足

甲突川河畔は、桜島や甲突川との美しい景観のほか、観光名所としてのポテンシャルが非常に高い場所ですが、他都市で見られるような**桜の魅力を活かした空間づくりが出来ておらず、その魅力を十分に活かし切れていない状況です。**※桜の魅力を活かした空間づくり：水面に映る桜や桜のトンネルなど

4 . 調査対象地の現状と課題

課題 2

大木化した樹木による様々な問題の発生

課題2-1. 大木化による緑地内や周辺環境への影響

クスノキやイチヨウなど緑地内にある樹木は、四季折々の景観や夏場の緑陰を形成する一方、**大木化により樹木同士が密植となり、生育に悪影響を及ぼしている場所や、根が隆起し通行に支障が出ている場所、夜間照明が遮られ、暗い印象を与えている場所**が見られるなど、様々な問題が発生しています。

また、近隣住民からは、“落ち葉が大量に発生し困っている”、“樹木が大きくなり、怖い”と言った意見も上げられています。



大木化した樹木



隆起した根

課題2-2. 桜への圧迫(被圧)や桜並木の分断

大木化した樹木の被圧により、樹形の悪化や日照不足が生じている桜が見られ、**桜の生育環境を悪化させています。**

また、景観スポットにおいても、**桜並木の連続性を分断し**、魅力的な景観が損なわれています。



クスノキに被圧され、樹形が悪くなっている桜



桜並木の連続性の分断

4 . 調査対象地の現状と課題

課題 3 年間を通じた魅力的なにぎわい空間の不足

課題3-1. 花見時期やイベント時以外の年間利用者が少ない

お花見の時期や木市などのイベント開催時には、幅広い世代が訪れ、活気あふれる空間となりますが、その時期以外は、散歩やジョギングなどの日常的な利用が主となり、**周辺のにぎわい拠点と比較すると、利用者数は少ない傾向にあります。**

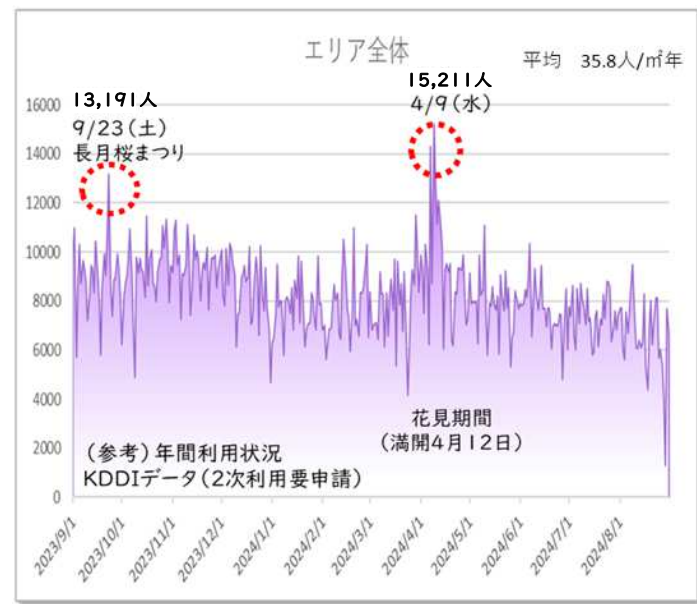


図1 甲突川河畔への年間来訪者推移(推定値)
(※各橋間の来訪者数については、参考資料②を参照)

課題3-2. 周辺のにぎわい拠点との回遊性が低い

甲突川河畔に隣接する「鹿児島中央駅地区」や「いづろ・天文館地区」といった周辺のにぎわい拠点との年間来訪者数を比較すると、**甲突川河畔への来訪者数は非常に少ないことがわかります。**(図2)

また、各にぎわい拠点間の年間周遊者数の割合を比較すると、甲突川河畔への周遊率は、「中央駅地区」と「いづろ・天文館地区」間の周遊率と比べ、非常に低くなっており、**甲突川河畔を軸とした周辺のにぎわい拠点への回遊性は低いことがわかります。**(表1)

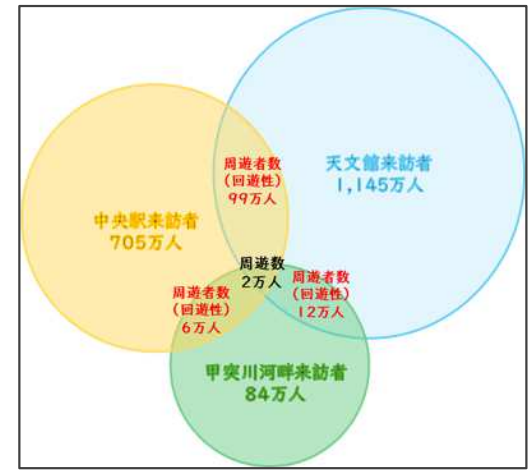


図2 各拠点における年間来訪者および周遊者数(推定値)

表1:各拠点における年間周遊者率(推定値)

エリア名	周遊者比率		
	中央駅地区	天文館・いづろ地区	甲突川河畔
「中央駅地区」×「天文館・いづろ地区」	14.0%	8.6%	—
「中央駅地区」×「甲突川河畔」	1.3%	—	13.0%
「天文館・いづろ地区」×「甲突川河畔」	—	1.3%	21.7%

4 . 調査対象地の現状と課題

課題 4

憩いの場としての快適性の不足

課題4-1. 遊具や施設、園路などの老朽化

遊具や休憩施設（ベンチ・東屋）、トイレ、園路などの老朽化・劣化が見られるほか、園路が狭く、段差がある場所や、自転車・歩行者用の園路が並走し、危険を伴う箇所も見られます。

課題4-2. 駐車場や夜間照明等の不足

(1) 近隣駐車場が少ないため、車を利用したい子育て世代や遠方からの来訪者にとっては、利便性が悪い場所となっています。

(※令和6年度に実施した市民意向調査においても、駐車場が少ないため、甲突川への来訪を敬遠している方が一定数いることがわかりました。)

(2) 公園灯の老朽化や大木化した樹木に光が遮られることにより、夜間時にうす暗い場所が見られます。

(※市民意向調査において、甲突川河畔に必要な整備内容として、「夜間照明の整備」が最も求められていることがわかりました。)



1. 老朽化した遊具やベンチ



2. 夜間時の甲突川河畔

課題 4-3. こどもたちが楽しめる遊び場の不足

緑地内には遊具が設置されていますが、それぞれが点在しており、まとまった遊び場は整備されていません。

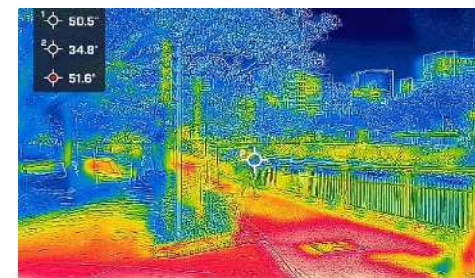
また、緑地の下流側（松方橋～天保山橋）周辺には、複合遊具を有するような規模の大きな公園が少なく、こどもたちが自由に遊べる場所は限られています。



3. 遊具で遊ぶこどもたちの様子

課題 4-4. 地球温暖化など気候変動への対応

地球温暖化等の影響を受け、夏場の甲突川河畔において、緑陰の無い場所では、50℃以上まで温度が上昇する場所もあり、夏場の快適な憩い空間を創出できていない状況です。



4. 夏場における園路の温度上昇の様子

4 . 調査対象地の現状と課題

課題 5

千本桜を守り育てる取組の不足

課題5-1. 持続的な維持管理体制の不足

現在の緑地内の樹木の維持管理は、造園事業者やシルバー人材センターによって行われていますが、近年の厳しい財政状況において、維持管理費は年々不足し、十分な維持管理が行えていない状況です。今後想定される、少子高齢化や人口減少に伴い、財源・人材面の制約はさらに高まることが予想されます。

他都市においては、継続的な維持管理を実現していくため、行政による維持管理に加え、「桜守活動※」と呼ばれるボランティア活動など、市民や事業者等との協働による活動が実施されていますが、本市ではそのような体制づくりが出来ていない状況です。

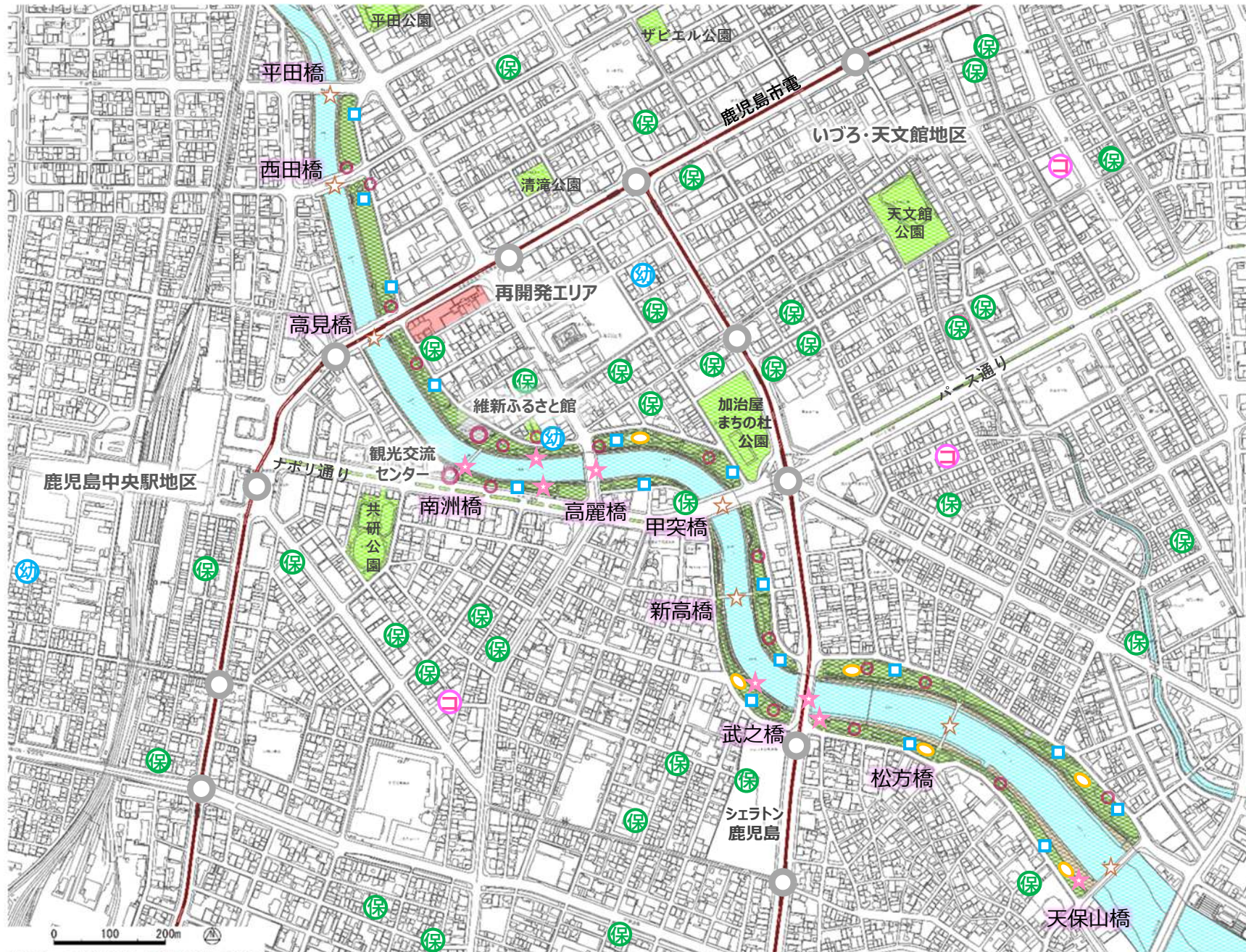
※地域の方で日常的に桜を見守り、保全するボランティア活動



市民との協働による活動のイメージ

参考資料①：甲突川河畔および周辺の施設情報

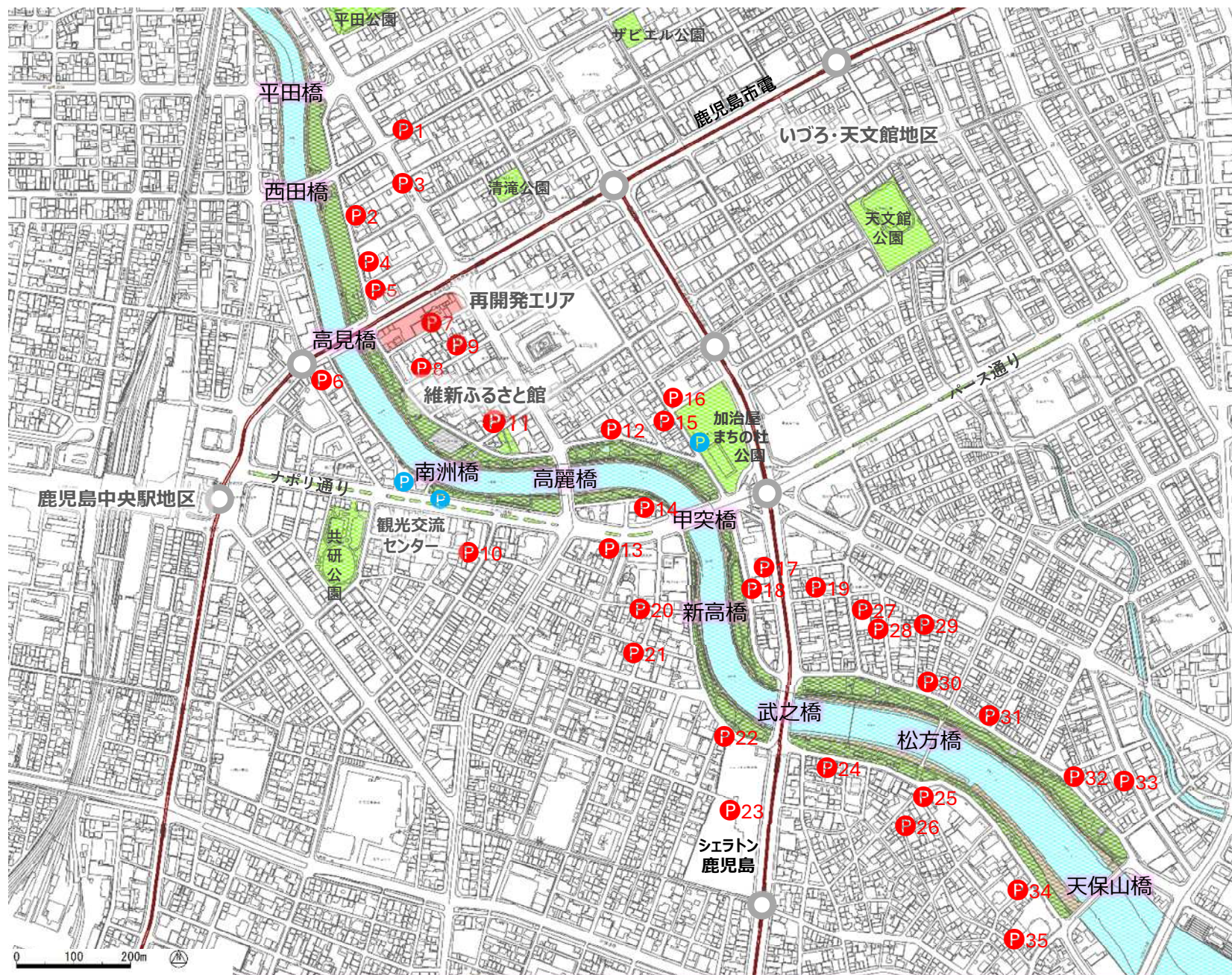
1. 甲突川河畔周辺の主な既存施設および眺望スポットの位置



- モニュメント
- 施設等
- トイレ
- 遊具
- こども園
- 幼稚園
- 保育園
- ★ 桜島への眺望スポット
- ★ その他眺望スポット

参考資料①：甲突川河畔および周辺の施設情報

2. 甲突川河畔および周辺の駐車場整備状況



- 公園、施設内駐車場
- 周辺駐車場

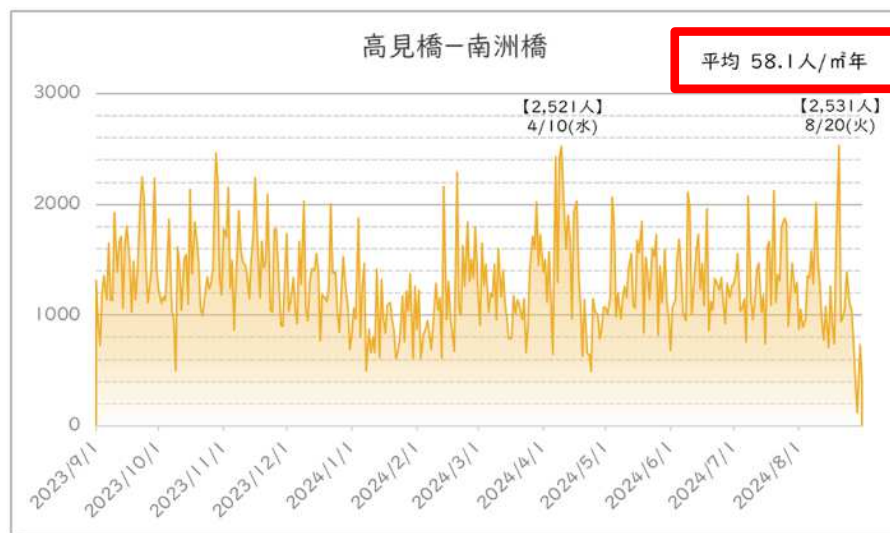
- 1: 100/h・600/12h・16台
- 2: 100/0.5h・900/12h・16台
- 3: 100/0.5h・700/7h・6台
- 4: 100/20m・900/10h・5台
- 5: 200/h・700/12h・64台
- 6: 700/24h・25台
- 7: 100/h・600/12h・22台
- 8: 100/h・500/12h・4台
- 9: 220/h・900/11h・9台
- 10: 100/h・700/24h・20台
- 11: 100/h・600/10h・10台
- 12: 100/h・700/10h・20台
- 13: 100/h・600/24h・13台
- 14: 100/70m・600/24h・9台
- 15: 100/30m・700/24h・12台
- 16: 100/30m・800/11h・8台
- 17: 100/h・700/24h・14台
- 18: 100/h・700/24h・11台
- 19: 110/40m・600/24h・31台
- 20: 100/h・600/24h・7台
- 21: 100/30m・600/24h・6台
- 22: 100/h・700/12h・9台
- 23: 150/30m・503台
- 24: 100/h・700/24h・8台
- 25: 100/h・600/12h・24台
- 26: 100/h・600/12h・5台
- 27: 100/h・600/24h・9台
- 28: 100/h・500/24h・8台
- 29: 100/h・600/24h・11台
- 30: 100/h・500/12h・6台
- 31: 100/h・300/12h・3台
- 32: 100/h・450/24h・12台
- 33: 110/30m・600/24h・19台
- 34: 100/h・500/12h・7台
- 35: 200/90m・4台

2024年11月6日
NAVITIME・ロケスマによる調査
9月調査より増減有

参考資料②：甲突川河畔への来訪者数に関する人流データ

甲突川河畔（緑地内）の各橋間において、携帯電話のGPS データを活用した人流データを確認し、年間の来訪者数の概ねの傾向を把握した。橋間により人流の状況に違いがあるが、桜が満開をむかえる春季およびイベント時に、多くの来訪者数を記録する傾向が把握できた。年間の単位面積当たりの人数では、「高見橋－南洲橋間」が最も多く、イベントの開催や交通機関によるアクセス性の良さが考えられる。

【平田橋～高麗橋の来訪者数の推移（単位面積あたりで表示）】



参考資料②：甲突川河畔への来訪者数に関する人流データ

【高麗橋～天保山橋の来訪者数の推移（単位面積あたりで表示）】

